

kkj

令和6年度
事業活動報告書



一般社団法人 環境共生まちづくり協会

令和7年3月

目次

令和6年度事業活動概要	1
1. 推進活動	3
1-1 環境共生団地・まちづくり事例の分析・整理	
1-2 環境共生住宅事例データベースの拡充	
1-3 「環境共生住宅・まちづくりの新たな魅力を 考える勉強会」の開催	
2. 調査研究活動	7
2-1 環境共生住宅推奨部品を組み込んだ「お勧め 建材ガイド」「お勧め設備ガイド」の検討 及び作成	
2-2 環境共生住宅推奨部品データベースの運営・ 管理	
3. 広報活動	9
3-1 ホームページの運用	
3-2 会員へのサービス提供	
3-3 会員拡大や協会の認知度向上等に向けた 広報活動	
4. 普及展開活動	18

令和6年度事業活動概要

令和6年度事業計画に基づき、次の事業の取り組みを推進・実施した。

1. 推進活動

(1) 環境共生まちづくり事例の分析・整理

環境共生住宅の一層の普及促進を目的とし、「環境共生住宅 早わかり設計ガイド/戸建住宅編・集合住宅編」で扱っていない『環境共生まちづくり・団地』について、昨年度に引き続き現地視察&ヒアリング調査を継続して実施した。

また、これまで行った現地調査で得られた知見を総合的に整理分析し、様々な機会における情報発信のためのコンテンツ充実化に努めた。具体的には、昨年度までに調査を行った8事例と同様に、本年度調査した2事例についても調査内容を「事例シート」として取りまとめた。更に、これまで行った現地調査&ヒアリング調査から得られた知見を「環境共生まちづくり」の視点から整理分析した。

(2) 環境共生住宅事例データベースの拡充

昨年度に引き続いて、環境共生住宅への理解・普及を目的に、環境共生住宅事例データベースの拡充を継続的に行った。掲載要件に基づき、会員企業等が取り組む新築及び改修事例を収集し、データベースに追加しホームページを通じて情報発信した。

本年度は、会員企業から情報提供された6事例について、kkjサイトへ情報を掲載した。

(3) 「環境共生住宅・まちづくりの新たな魅力を考える勉強会」の開催

住宅・まちづくりに対するニーズや価値観などが多様化している今日的状況を背景に、「環境共生住宅」の魅力をさらに高めていくための新たな視点を探ることを目的に、昨年度に試行的に実施した「環境共生住宅・まちづくりの新たな魅力を考える勉強会」を令和6年度も計2回開催した。本年度は、「環境共生住宅・まちづくり」×「地域防災」並びに×「ウェルビーイング・ライフスタイル」を各テーマに勉強会を開催した。

2. 調査研究活動

(1) 環境共生住宅推奨部品を組み込んだ「お勧め建材ガイド」「お勧め設備ガイド」の検討及び作成

「お勧め建材ガイド」及び「お勧め設備ガイド」の1地域編、2地域編公開データを作成した。

「お勧め建材ガイド」のレベル3は、繊維系断熱材と発泡プラスチック系断熱材を組みわせ1つの仕様とした。「お勧め設備ガイド」は寒冷地特有の熱源機として石油潜熱回収型熱源機、暖房はパネルラジエーターを追加した。

(2) 環境共生住宅推奨部品データベースの運営・管理

推奨部品の登録及び利用の拡大を目指し、推奨基準項目「XI レジリエンスの向上」について、該当する既存及び新規部品分類について検討し、推奨基準等についても合わせて検討を行った。具体的には、「レジリエンスの向上」に該当する部品として、新たに既存部品分類の「給湯・給湯暖房機器（エコキュート、ハイブリッド給湯機）」、「雨水利用システム」を対象とし、推奨基準等を追加した。また、新たな部品分類として「配線器具（高機能コンセント/切替開閉器/高機能分電盤）」、「高機能ガラスフィルム」を追加した。

その他、環境共生住宅推奨部品に関する新たな会員サービスの一環として「推奨部品紹介シート」の検討を行った。これらに伴い、環境共生住宅推奨部品のホームページ及び環境共生住宅推奨部品の「概要と推奨基準の考え方」、「申請の手引き」についても修正を行った。

3. 広報活動

(1) 環境と共生する家づくりに関する情報発信

①ホームページの運用

kkjサイトへのアクセス数は、ページビュー数、訪問数共に増加した。エンドユーザーに向けて、環境共生住宅の良さやそこでの暮らし方についての情報発信を引き続き実施した。

環境と共生する暮らし方教室として、kkjのWEBサイトや出版物を元に「涼しく過ごす夏の工夫」を紹介するパワーポイントを取りまとめ、新たな広報用ツールを作成した。

②居住者インタビューの実施

居住者インタビューでは、まちづくりに範囲を広げ、“ゆるやかに集まってつくる土と繋がった暮らし”をコンセプトとした環境共生型の賃貸住宅「ちっちゃい辻堂」の地主兼大家の方に、100年先の辻堂を想像した「これからの暮らし」の最小単位をつくる試みについての話を伺うことができた。

(2) 会員へのサービス提供

①見学会の開催

第1回では、ガスコージェネレーションによるエネルギー消費の平準化、効率化を図り、コンパクト&スマートシティによる都市拠点再編モデルとなることを目指した最先端のまちづくりを見学することができた。

第2回では、“ゆるやかに集まってつくる土と繋がった暮らし”をコンセプトとし、望む顔の見える関係性、自然と寄り添う丁寧な暮らしへのゆるやかなシフト等をキーワードとしたこの地に住み続ける地主による手作りのまちづくりを見学することができた。計2回の見学会で延べ51名が参加した。

②交流セミナーの開催

第1回では、聴竹居のデータを基に、地域に潜在する様々な特徴や地域資源を受け入れるパッシブと、これらの要素によって人の行動や建築を形作るレスポンスの双方向のデザインとしての「受容する建築」について学ぶことができた。

第2回では、気候変動への対応の重要性が高まる中で、数値や性能だけではない、その先にある生活や都市はどのようなものなのか、そのための新しい美学の必要性について学ぶことができた。計2回のセミナーで延べ93名が参加した。

③技術研修交流会の開催

座学では、ガラスフィルムで出来るインテリア美観維持+省エネ効果について学ぶことができ、ショールーム見学では、紫外線や熱の伝わり方を体感できる展示空間や漁網やペットボトルをリサイクルした床材、糶殻を使った壁紙等の特徴的な商品を見学することができた。

④機関誌の発行

独自の取材記事や協会主催の見学会、交流セミナー

等の実施レポートをまとめ、計1回発行した。

⑤kkjの活動情報発信

kkjサイトの会員専用ページでは、最新情報への更新・追加に努め、会員向けの情報の充実化を進めた。

また、会員サービスの利用状況を整理し、より利用度・満足度を高める会員サービスを模索した結果、会員向けメールマガジンという形でkkjサイトの更新内容を定期的に発信した。

(3) 会員拡大や協会の認知度向上等に向けた広報活動

①kkjサイトの解析結果を活かした広報・普及活動の展開

kkjサイトを中心に、協会の活動や環境共生に関する最新情報を積極的に発信した。またサイトのアクセス解析結果を活かし、kkjサイトの改編を行い、より効果的な広報・普及活動を展開した。

令和5年度のサイト解析において、特に関心の高かった「パッシブデザイン」「公共施設」をキーワードに対応するページとして、「環境共生住宅とパッシブデザイン」の事例に「公共施設」を追加した。

また、国庫補助事業の成果報告（成果物・報告書概要版）を掲載するページについて、より利用者の目に留まりやすいようメニュー構成を修正。表紙の画像を加えて、年度ごとの取り組み内容が伝わるような改編を行った。

②地域からの便りの原稿募集

kkj地域会員の家づくりに関する活動を「地域からの便り」として発信してもらえるよう、3回の期間を設けて原稿の募集を行った。

4. 普及展開活動

脱炭素型社会やSDGsに賛同する組織として、社会的要請やニーズに対応すべく体制や活動内容等の更なる充実を図るとともに、団体名称変更に伴い、kkjが対象とする環境共生まちづくりに関する検討を行った。

また、kkj活動の成果物（出版物やツール等）を積極的に公開し、環境共生住宅やパッシブデザインの普及に資する活動を展開し、会員の拡大を図る活動を実施した。

1. 推進活動

1-1 環境共生まちづくり事例の分析・整理《継続》

(1) 概要

環境共生住宅の一層の普及促進を目的とし、「環境共生住宅 早わかり設計ガイド/戸建住宅編・集合住宅編」で取扱いのない『環境共生まちづくり・団地』について、昨年度に引き続き現地視察&ヒアリング調査を継続して実施した。これにより現地調査は計10事例となり、現地調査並びにヒアリングを通じなければ得られない貴重な情報（特に竣工後現在までの実態など）が得られた。

また、これまで行った現地調査で得られた知見を総合的に整理分析し、様々な機会における情報発信のためのコンテンツ充実化に努めた。

(2) 実施内容

- ①令和6年度も引き続き、竣工後ある程度の期間が経過した特徴的な「環境共生団地・まちづくり事例」の現地視察&ヒアリング調査を実施した。本年度は、「大宮ヴィジョンシティみはしの杜」並びに「クイーンズフォレスト流山おおたかの森」の2事例を調査した。
- ②これら事例調査内容を「事例シート」として取りまとめるとともに(図1-1)、調査内容の総合的な整理・分析を行った。具体的には、環境共生住宅の3つのテーマ別にまちづくり手法・対策の導入実態や特徴（うまくいった点、うまくいかなかった点、効果、住民の反応など）を整理・分析した。(図1-2)。
- ③これら「事例シート」や「環境共生まちづくりの手法・特徴分析」を令和3年度に立ち上げたkkjサイト内のコンテンツ「環境共生まちづくり事例データベース」内にアップした。
- ④次年度も引き続き現地調査並びにヒアリング調査を継続して行く予定である。調査内容を「事例シート」として取りまとめるとともに、これまで行った現地調査&ヒアリング調査から得られた知見を整理分析し、部会メンバーはもちろんkkj会員に対し広く情報共有していく予定である。

《事例シート：大宮ヴィジョンシティみはしの杜》

本資料は、2024年9月10日（火）に実施された「第9回事例視察・ヒアリング調査（場所：大宮ヴィジョンシティみはしの杜）における事例視察&ヒアリング調査の概要を整理したものです。「永住」を大テーマに掲げ、そこから導き出した「健康・安全・景観・省エネ」を実現する環境重視型の家と街づくりをするポラスグループの理念が詰まったプロジェクトで、国土交通省の「平成25年度 第1回住宅・建築物省CO₂先導事業」に選ばれており、現在までの取り組み状況・課題などについてお聞かせします。

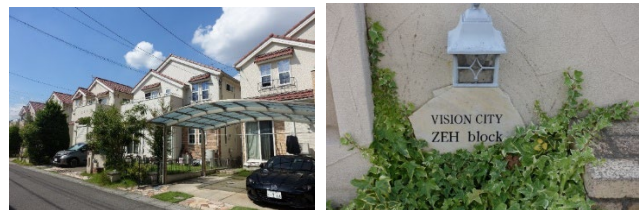
■実施日：2024（令和4）年9月10日（火）

■ヒアリング対象者：

○野田 将樹氏（(株)ポラス暮らし科学研究所 住環境G長）

○野澤 道子氏（ポラス(株)経営企画部秘書室 主任）

○杉山 勝也氏（ポラス(株)経営企画部秘書室 主任）



《事例シート：クイーンズフォレスト流山おおたかの森》

本資料は、2025年1月14日（火）に実施された「第10回事例視察・ヒアリング調査（場所：クイーンズフォレスト流山おおたかの森）における事例視察&ヒアリング調査の概要を整理したものです。権利者組織から考えた計画的な戸建て住宅団地づくりの恒例として、計画の経緯や取り組み状況・課題などについてお聞かせします。

■実施日：2025（令和7）年1月14日（火）

■ヒアリング対象者：

○温井 達也氏（(株)プレイスメイキング研究所 代表取締役）

○川端 一彦（(一財)住宅生産振興財団 事業部部长）



図1-1 令和6年度に実施した視察&ヒアリング調査事例

事例視察・ヒアリング調査内容の整理・まとめ案について
その3：まちづくりにおける環境共生手法の取り組み内容について

A.「地球環境にやさしい（ロー・インパクト）」（2）全戸ZEH化・CO2ゼロタウン化

A.導入されている環境共生手法、理由・ポイント	B.導入できなかった理由
<p>1. エムスマートシティ熊谷</p> <p>①全戸(73戸)でZEHを目指し、PV、燃料電池、HEMS、EV用充電外部コンセントを設置。 ②竣工当時、全戸でエネファームを採用した事例はなく、そのおかげで床暖房が全戸標準で導入。 ③窓についても全戸樹脂サッシ導入。 ④複数の補助金を活用できたことは大きい。</p> <p>2. Fujisawa サステナブル・スマートタウン</p> <p>①自産自消のもと、人々の暮らしを次代まで考えぬいたエネルギーサービスを提供。 ②すべての戸建住宅で太陽光発電システム、蓄電池ユニット、スマートHEMSを装備。 ③将来はまちの各施設の「BEMS」とも連携し、まち全体のCEMS(自立共生型のエネルギーマネジメント)も視野。</p> <p>5. SMA×ECO TOWN 晴美台</p> <p>①住宅用の太陽光発電設備は屋根置き、オール電化で5.7kW、エネファームのガス併用で4.8 kW。 ②省CO2促進事業の補助金を活用。 ③ZEHにするには太陽光発電を設置する必要があり、区画割の段階から太陽光発電をどのくらい設置するかを想定して区画割を検討。</p> <p>7. みんなの未来区 BONJONO</p> <p>①エネルギー消費量の最小化(STEP1)と、再生可能エネルギーへの転換(STEP2)により、まちからのCO2排出量「実質ゼロ」を目指す。 ②高気密・高断熱構造によるエネルギーロスの削減、高効率給湯器等の省エネ機器によって、消費エネルギーの最小化を図る。また、使用する電力の一部は太陽光発電で賄う。戸建住宅はダブル発電+ZEH仕様+HEMSが導入。集合住宅では、全戸の約80%にエネファーム導入、残り20%はオール電化。</p> <p>9. 大宮ヴィジョンシティみはしの杜</p> <p>①回地内のZEH街区では、すべての住戸に太陽光発電ならびにハイブリッド給湯器を導入し、ZEHを目指した。 ②結果的には、地区内を5街区に分けそれぞれ開発コンセプトを持たせ、一部街区のみZEH街区とした。なお、「次世代街区」ではお客さまが太陽光発電を選んではZEHになるという街区も設定。</p>	<p>9. 大宮ヴィジョンシティみはしの杜</p> <p>①その当時、不動産業界としてはZEHに取り組む機運にはまだなく、当初は全戸ZEH化も考えたが、売れないのでは、また、売り方を知らないことから現在のように一部ZEH化というレベルになった。</p> <p>C.効果の実態</p> <p>1. エムスマートシティ熊谷</p> <p>①全戸ZEHを目指し、これにより、CO2排出量70%以上の削減を目指す。</p> <p>5. SMA×ECO TOWN 晴美台</p> <p>①年間のZ E T率は、110.04%を達成(共用部も含む回地全体として)。 ②夏や中間期は太陽光発電による発電量が上回っているが、冬は太陽光発電量が少なく、冷房より暖房によるエネルギー消費量が大きい。冬は残念ながらゼロにはならない。 ③ZEH試算の時に一番苦労したのはエネファーム。床暖房を使われるのがどれくらいかという想定が難しい。 ④当回地では断熱仕様をワンランク高く設定している(建物全体でQ値は概ね1.9で建設、ほぼ東北地域仕様)のに関わらず、想定よりも床暖房の利用は増加。</p> <p>7. みんなの未来区 BONJONO</p> <p>①2020年度のゼロ・カーボン達成度は約80%まで達成。3街区では(戸建街区)1059%を達成。</p> <p>D.計画・設計・導入時での課題、計画上の留意点</p> <p>5. SMA×ECO TOWN 晴美台</p> <p>①当時はまだZEH(ゼッチ)の基準がはっきりなく、経産省の間でいろいろシミュレーションを実施。 ②今後の住宅回地づくりに関して重要なコンセプトはZ E H。Z E Hを目指すことが基本的な考え方。 ③卒FITに今どれくらい引き合いがあるかは、把握はできていない。回地ごとではなく、お客さまごとの対応。</p> <p>7. みんなの未来区 BONJONO</p> <p>①FIT切れを迎える太陽光発電の対応方針はまだ決まっていない。蓄電も検討しなければならない。</p> <p>E.居住者の反応</p> <p>1. エムスマートシティ熊谷</p> <p>①街並みに対する評価がすごく高く、また、導入技術や省エネ・創エネ性ということにも満足。</p> <p>2. Fujisawa サステナブル・スマートタウン</p> <p>①全600戸が完売。</p> <p>5. SMA×ECO TOWN 晴美台</p> <p>①国の省CO₂関連補助や堺市の補助もありその点が決め手。</p>

図1-2 環境共生まちづくり事例調査で得られたまちづくり手法・対策の特徴分析

1-2 環境共生住宅事例データベースの拡充《継続》

(1)概要

昨年度に引き続いて、環境共生住宅への理解・普及を目的に、環境共生住宅事例データベースの拡充を図った。掲載要件に基づき、会員企業等が取り組む新築及び改修事例を収集し、データベースに追加しホームページを通じて情報発信した。

会員企業の協力及びkkj活動を通じて、地域性に配慮した特徴的かつ先導的な新築事例を収集し、情報発信することができた。

(2)実施内容

①新築及び改修事例の収集、データベースへの追加
会員企業から情報提供された次の6事例について、kkj サイトへ情報を掲載した。(図1-5)

(2)実施内容

①令和6年度第1回として、「環境共生住宅・まちづくり」×「地域防災」というテーマで勉強会を開催した。開催概要は次の通り。

- ・テーマ：「環境共生住宅・まちづくり」×「地域防災」
- ・プレゼンター：村上正浩教授(工学院大学建築学部まちづくり学科)
- ・主催：一般社団法人 環境共生まちづくり協会
- ・開催日時：令和6年10月1日(火) 15:00~17:00
- ・開催場所：一般社団法人 建築行政情報センター(ICBA) 会議室
- ・対象：環境共生まちづくり協会会員
- ・参加者：現地20名、WEB3名(計23名)

1-3 「環境共生住宅・まちづくりの新たな魅力を考える勉強会」の開催《継続》

(1)概要

昨年度に試行的に実施した「環境共生住宅・まちづくりの新たな魅力を考える勉強会(第1回)」の反省点なども踏まえて、令和6年度も計2回の勉強会を開催した。

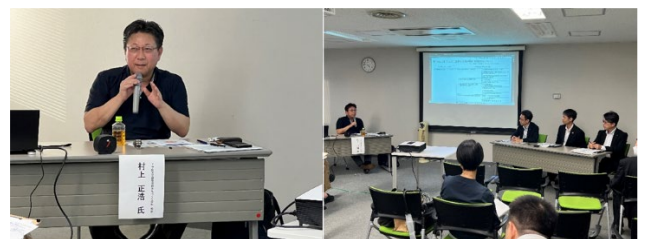


図1-3 令和6年度第1回勉強会のようす

②令和6年度第2回として、「環境共生住宅・まちづくり」×「ウェルビーイング、ライフスタイル」というテーマで勉強会を開催した。開催概要は次の通り。

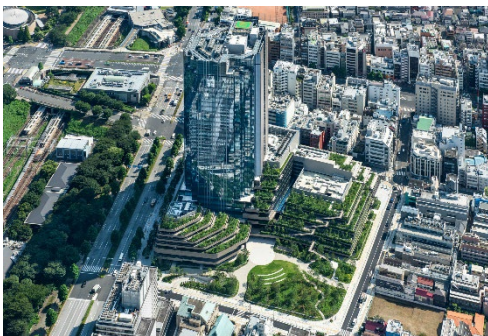
- ・テーマ：「環境共生住宅・まちづくり」×「ウェルビーイング、ライフスタイル」
- ・プレゼンター：加茂みどり教授（追手門学院大学地域創造学部）
- ・主催：一般社団法人 環境共生まちづくり協会
- ・開催日時：令和7年1月30日（木）15:00～17:00
- ・開催場所：TKP 飯田橋ビジネスセンター会議室
- ・対象：環境共生まちづくり協会会員
- ・参加者：現地10名、WEB7名（計17名）



図1-4 令和6年度第2回勉強会のようす

③令和6年度第1回並びに第2回の勉強会資料等を協会ホームページにアップし、情報発信中である（会員限定で発信）。

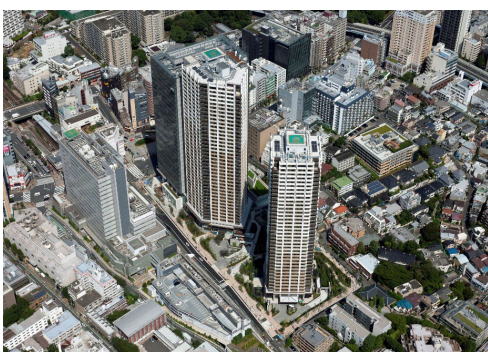
①コレ四谷



四谷駅前エリア初となる市街地再開発事業による大型複合ビルとして「地形と都市の融合」という全体コンセプトを実現すべく、隣接して広がる外濠の「大地」の起伏と豊かな「緑」を計画地内に取り込んで、種々に異なる規模、機能、構造の建物群を、ひとつの新しい「環境」となるよう設計した。

- 環境共生要素技術：[省エネ][省資源][親和性][健康快適]
- 所在地：東京都新宿区
- 竣工年：2020年
- 基本設計・監修：日本設計・三菱地所設計共同体
- 実施設計：大成建設株式会社一級建築士事務所
- 構造・規模：RC、S、SRC

②Brillia Towers 目黒



目黒駅前の賑わいある商業地域と周辺の閑静な住宅地域をつなぐ大規模敷地の市街地再開発事業である。

駅前オフィス低層部には都市の賑わいを連続させる「文化の広場」を設け、業務・商業店舗ゾーンを通り抜けると、2つの住宅棟の間に広がる緑豊かな「森の広場」に繋がり、さらに住宅地に繋がることで新たな街並みを創造している。

- 環境共生要素技術：[省資源][親和性][健康快適]
- 所在地：東京都品川区
- 竣工年：2017年
- 基本設計：日本設計
- 実施設計・監理：大成建設(レジデンス・外構) 竹中工務店(オフィス) 設計共同企業体
- 施工：大成建設(レジデンス・外構) 竹中工務店(オフィス) 設計共同企業体
- 構造・規模：RC、S

図1-5 kkj サイトに掲載した事例データベース（令和6年度新規）

③ SMART STYLE Roomie(スマートスタイルルーミー) 大屋根タイプ



2階から一枚の屋根で葺き下ろす大屋根形態の「ミニマル ECO フォーム」で7.2kWの太陽光パネルを搭載し、コンパクトな32坪の床面積でもLCCM住宅に対応。

屋根形態を活かした勾配高天井により気積や外皮面積を抑えながら、上下階のつながりと実面積以上の広がりのある空間を実現。

- 環境共生要素技術：[省エネ][省資源][親和性][健康快適]
- 所在地：静岡県袋井市
- 竣工年：2024年
- 設計・施工：ミサワホーム株式会社
- 構造・規模：木質パネル接着工法、地上2階建
延床面積/107.44㎡

④ウインズタウン神戸みずき台



パナソニックホームズが主体で組成した土地区画整理組合による区画整理事業。長距離渡り蝶“アサギマダラ”をモチーフに、幸せを運ぶ青い蝶が飛来する物語をバックグラウンドストーリーとして設定。街の中に蝶の飛来を促す「バタフライガーデン」の設置や里山緑地の保全や活用を通じて、生物多様性に配慮した街づくりを実施。全戸は、ZEH（NearlyZEHを含む）とし、環境負荷を抑えた快適な住まいを提供。

- 環境共生要素技術：[省エネ][親和性][健康快適]
- 所在地：兵庫県神戸市
- 竣工年：2023年11月造成工事終了
- 設計（造成工事）：株式会社近畿日本コンサルタント
- 施工（造成工事）：株式会社大林組
- 構造・規模：土地区画整理事業として造成
開発面積/213,851㎡、宅地区画数/589区画、約9,000㎡の生活利便施設用地、コミュニティコテージ（集会所）
開発面積に対して約25%を里山緑地としての残し、緑に包まれた街づくりを実施

⑤ K様邸



断熱性能のアップデートを目指したリフォーム。1階部分をまるごと断熱化して、新築当時の等級2（新省エネ基準）から等級5レベル（ZEH基準）まで向上。省エネ+くらしの快適性UPを図っている。

- 環境共生要素技術：[省エネ][省資源][健康快適]
- 所在地：神奈川県
- 竣工年（改修）：2022年
- 設計・施工：パナソニックホームズ株式会社、パナソニックリフォーム株式会社
- 構造・規模：軽量鉄骨造

⑥ N様邸



3年前の新築時にも検討されていた全館空調システムを導入するリフォーム。家の中どこにいても快適な温度環境になり、ご家族+愛犬の健康快適な生活を実現。

- 環境共生要素技術：[省資源][健康快適]
- 所在地：大阪府
- 竣工年（改修）：2023年
- 設計・施工：パナソニックホームズ株式会社、パナソニックリフォーム株式会社
- 構造・規模：軽量鉄骨造

図1-5 kkjサイトに掲載した事例データベース（令和6年度新規）

2. 調査研究活動

2-1 環境共生住宅推奨部品を組み込んだ「お勧め建材ガイド」「お勧め設備ガイド」の検討及び作成

(1) 概要

「お勧め建材ガイド」及び「お勧め設備ガイド」の1地域編、2地域編公開データを作成した。1地域編は2025年(令和7年)3月31日に、2地域編は2025年(令和7年)4月30日に、それぞれ建材ガイドと設備ガイドをセットで公開した。

(2) 実施内容

①「お勧め建材ガイド」仕様の決定

- 1地域及び2地域のレベル設定をレベル1: $U_A=0.46$ 以下、レベル2: $U_A=0.40$ 以下、レベル3: $U_A=0.28$ 以下として、仕様の検討及び決定を行った。
- レベル1は充填断熱工法(繊維系断熱材)、外張断熱工法(発泡プラスチック系断熱材)、レベル2は付加断熱工法(繊維系断熱材)、外張断熱工法(発泡プラスチック系断熱材)とし、レベル3は、付加断熱工法で繊維系断熱材と発泡プラスチック系断熱材を組合わせて1つの仕様とした。

②「お勧め設備ガイド」設備機器組合せの検討

- 寒冷地で供給されている製品を確認したうえで、設備グレードは1つとした。
- 寒冷地特有の熱源機として石油潜熱回収型熱源機、暖房はパネルラジエーターを追加し28Caseとした。
- 掲載したCaseは表2-1参照。なお、冷房、照明、給湯設備は共通の仕様としている。

③その他

- 掲載したケースと新たに開始された「GX志向型住宅」との対応がわかる様に、ガイド内に表示を追加した。

表 2-1 お勧めガイド発行状況と今後の予定 (2025年4月現在)

地	お勧め建材ガイド		お勧め設備ガイド	
	既発行年	発行目標	既発行年	発行目標
1	2025年	公開済み	2025年	公開済み
2	2025年	公開済み	2025年	公開済み
3	2019年	2025年度	未	2025年度
4	2017年	2025年度	未	2025年度
5	2023年	公開済み	2023年	公開済み
6	2023年	公開済み	2023年	公開済み
7	2023年	公開済み	2023年	公開済み

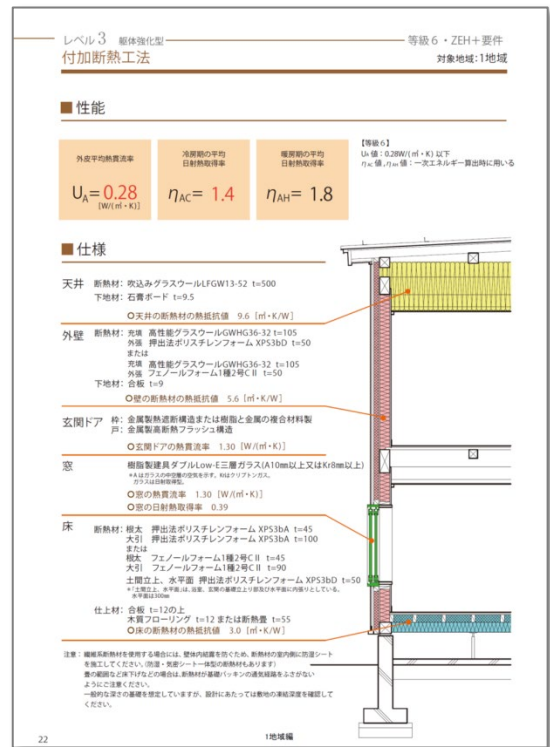


図 2-1 「お勧め建材ガイド」掲載ページ例

表 2-2 「お勧め設備ガイド」掲載 Case 一覧

表 4-1 電気とガスを用いる住宅【外皮性能:断熱レベル1(省エネ基準)、断熱レベル2(誘導基準)】

分類	暖房方式	給湯		換気方式	掲載頁
		熱源機	熱源機		
Case 1-1	ルームエア コンデショナー	-	エコジョーズ	ダクト式 第一種換気設備 (熱交換型)	23
Case 1-2			エコフィール		25
Case 1-3	一体型	ハイブリッド給湯機	エコジョーズ		27
Case 1-4			エコフィール		29
Case 1-5	一体型	ハイブリッド給湯・暖房熱源機	エコジョーズ		31
Case 1-6	一体型	ハイブリッド給湯・暖房熱源機	エコフィール		33
Case 1-7	一体型	エネファーム	エコジョーズ		35
Case 1-8	一体型	エコジョーズ	エコジョーズ		37
Case 1-9	パネルラジエーター	エコフィール	エコフィール		39
Case 1-10	一体型	ハイブリッド給湯・暖房熱源機	エコジョーズ		41
Case 1-11	一体型	エネファーム	エネファーム		43

表 4-2 電気とガスを用いる住宅【外皮性能:断熱レベル3】

分類	暖房方式	給湯		換気方式	掲載頁
		熱源機	熱源機		
Case 2-1	ルームエア コンデショナー	-	エコジョーズ	ダクト式 第一種換気設備 (熱交換型)	45
Case 2-2			エコフィール		47
Case 2-3	一体型	ハイブリッド給湯機	エコジョーズ		49
Case 2-4			エコフィール		51
Case 2-5	一体型	ハイブリッド給湯・暖房熱源機	エコジョーズ		53
Case 2-6	一体型	ハイブリッド給湯・暖房熱源機	エコフィール		55
Case 2-7	一体型	エネファーム	エコジョーズ		57
Case 2-8	一体型	エコジョーズ	エコジョーズ		59
Case 2-9	パネルラジエーター	エコフィール	エコフィール		61
Case 2-10	一体型	ハイブリッド給湯・暖房熱源機	エコジョーズ		63
Case 2-11	一体型	エネファーム	エネファーム		65

表 4-3 オール電化住宅【外皮性能:断熱レベル1(省エネ基準)、断熱レベル2(誘導基準)】

分類	暖房方式	給湯		換気方式	掲載頁
		熱源機	熱源機		
Case 3-1	ルームエア コンデショナー	-	エコジョーズ	ダクト式 第一種換気設備 (熱交換型)	67
Case 3-2	温水床暖房	電気ヒートポンプ 温水暖房機	エコキュート	ダクト式 第一種換気設備 (熱交換型)	69
Case 3-3	パネルラジエーター	-	エコキュート	ダクト式 第一種換気設備 (熱交換型)	71

表 4-4 オール電化住宅【外皮性能:断熱レベル3】

分類	暖房方式	給湯		換気方式	掲載頁
		熱源機	熱源機		
Case 4-1	ルームエア コンデショナー	-	エコジョーズ	ダクト式 第一種換気設備 (熱交換型)	73
Case 4-2	温水床暖房	電気ヒートポンプ 温水暖房機	エコキュート	ダクト式 第一種換気設備 (熱交換型)	75
Case 4-3	パネルラジエーター	-	エコキュート	ダクト式 第一種換気設備 (熱交換型)	77

※一体型は給湯・温水暖房一体型を示す。

2-2 環境共生住宅推奨部品データベースの運営・管理

(1) 概要

推奨部品の登録及び利用の拡大を目指し、推奨基準項目「XI レジリエンスの向上」について、該当する既存及び新規部品分類について検討し、推奨基準等についても合わせて検討を行った。新たな部品分類として「配線器具（高機能コンセント/切替開閉器/高機能分電盤）」、「高機能ガラスフィルム」を追加した。

その他、環境共生住宅推奨部品に関する新たな会員サービスの一環として「推奨部品紹介シート」の検討を行った。

これらに伴い、環境共生住宅推奨部品の「概要と推奨基準の考え方」及び「申請の手引き」についても修正を行った。

(2) 実施内容

①「XI レジリエンスの向上」に該当する部品及び新規部品分類の検討

- 「XI レジリエンスの向上」に該当する部品として、新たに「給湯・給湯暖房機器（エコキュート、ハイブリッド給湯機）」、「雨水利用システム」を対象とし、推奨基準等を追加した。

- 新規部品分類として、「配線器具（高機能コンセント/切替開閉器/高機能分電盤）」、「高機能ガラスフィルム」を追加した。

- 推奨基準等の追加に伴い、環境共生住宅推奨部品の「概要と推奨基準の考え方」を修正した。

②ホームページ掲載情報の検討

- 既存部品分類の推奨基準等の変更及び新規部品分類の追加に伴い、部品紹介の記載内容等について、ホームページの更新を行った。

- また合わせて登録申請に関する書類（推奨基準、登録申請書）を更新した。



図 2-2 新規部品分類「配線器具」のアイコン

③推奨部品紹介シートの作成

環境共生住宅推奨部品に関する新たな会員サービスの一環として、環境共生住宅推奨部品をエンドユーザーに向けて積極的に PR できる「推奨部品紹介シート」を作成した。

公開日：2025年〇月〇日

環境共生住宅推奨部品 部品紹介

非常用電源に自動で切替 自動切替開閉器

河村電器産業株式会社

部品分類	配線器具（自動切替開閉器）	
部品の概要・特徴	<ul style="list-style-type: none"> 停電時、非常用電源に自動で切り替え 蓄電池等と組み合わせることで停電時でも生活に必要な電気が使用可能 コンパクト設計で設置場所を選ばない 	
適用範囲	■新築 ■リフォーム	
部品の紹介 URL	https://www.kawamura.co.jp/news/20210201/	

【部品の特長】

以下を組み合わせで選択が可能
 極数：単 2 / 単 3
 フレーム：60AF / 100AF
 定格仕様電圧：AC100/200V / AC100V
 補助接点：有 / 無
 ケース：有 / 無

動作イメージ

手で操作できるハンドルを、装置で自動化。不要な場合は手動操作のみに切り替えることもできます。

推奨基準への対応	I.省エネルギー・脱炭素化	VII.室内環境の汚染防止	
	II.省資源	VIII.ユーザーのニーズに応える質の水や空気を提供	
	III.耐久性	IX.ユーザーのニーズに応える安心・安全の提供	
	IV.3Rの推進	X.自然・天然素材の活用	
	V.地球環境の汚染防止	XI.レジリエンスの向上	○
	VI.地域環境の汚染防止		○

河村電器産業株式会社
 〒489-0071 愛知県瀬戸市鳴町 3-86
 技術相談専用テレフォニーサービス TEL：0561-86-8171

一般社団法人 環境共生まちづくり協会
※環境共生住宅推奨部品は、一般社団法人 環境共生まちづくり協会の協力が一定の基準に基づき推薦している部品です。
 ※製品の掲載情報については、製品を製造・供給・販売等を行う企業に準拠します。

図 2-3 推奨部品紹介シート（記載例）

④既存部品分類製品の追加掲載

- 既存推奨部品の登録更新作業を実施した。
- 既存部品分類について 14 製品を追加し公開した。
- 推奨部品掲載製品数は 29 分類 154 製品^{※1}となった。
 ※1：重複登録は、「内装仕上げ材（壁材・天井材）」と「内装仕上げ材（調湿・脱臭建材）」：1件。

表 2-3 2024 年度に新たに追加した製品

分類	種類	製品名	メーカー名
断熱材	グラスウール	アクリアGPACマット	旭ファイバーグラス(株)
		マットエースHG	
開口部材(窓)	アルミ複合	APW651	YKK AP(株)
開口部材(玄関ドア)	アルミ形材断熱構造/アルミ製	M30 顔認証自動ドア	三協立山(株) 三協アルミ社
	アルミ形材断熱構造/ アルミ樹脂複合断熱パネル構造	プロノバ2	
高機能 ガラスフィルム	遮熱(日射調整)フィルム	ルーセント90(GF1101)	(株)サンゲツ
	遮熱(日射調整)フィルム	コア70(GF1102)	
	遮熱(日射調整)フィルム	ミラー40(GF1106)	
	遮熱(日射調整)フィルム	ミラー20(GF1108)	
	遮熱(日射調整)フィルム	ミラー20EX(GF1110)	
	遮熱(日射調整)フィルム/断熱(低放射)フィルム	エコラム70(GF1206)	
配線器具 (高機能コンセント)	火災予防コンセント	プレートックコンセント	河村電器産業(株)
配線器具 (切替開閉器)	自動切替開閉器	自動切替開閉器	
配線器具 (高機能分電盤)	感震機器	感震ブレーカー	

3. 広報活動

3-1 ホームページの運用

(1) 概要

kkj は平成 10 年度（1998 年度）より、ホームページを通じて、環境共生住宅についての基礎的な情報から、暮らし方や住み心地、関連する最新動向等を常に発信し続けており、kkj の普及啓発活動における効果的なツールとして機能している。令和 6 年度は、「環境共生住宅とパッシブデザイン」の中に「公共施設」の事例を追加した。また、「国庫補助事業成果報告」ページの改訂を行い、kkj の活動をより見やすい形で発信できるよう取り組みを行った。



(2) ホームページのアクセス結果

令和 6 年度のホームページのアクセス概要を以下に示す。

表 3-1 アクセス総数の前年度比較

PV 数※1	令和 6 年度	339,165	国庫補助事業	162,220
				一般事業
			TOP ページ	62,838
訪問数※2	令和 5 年度	298,333	国庫補助事業	97,319
			一般事業	184,400
			TOP ページ	16,614
訪問数※2	令和 6 年度	105,164		
	令和 5 年度	99,618		

表 3-2 アクセス数月平均値の前年度比較

	PV 数※1	訪問数※2	1人あたりの平均PV
令和 6 年度	28,264	9,032	3.08
令和 5 年度	24,861	8,302	3.20

※1. PV（ページビュー）数：ホームページ全体の閲覧ページ数

※2. 訪問数：同じ IP アドレスの訪問延べ数

アクセス総数の前年度比較を見ると、前年度よりもページビュー数、訪問数共に増加した（表 3-1 参照）。

アクセス数月平均値の前年度比較でも、月当たりのページビュー数、訪問数共に増加したが、一人当たりの平均ページビュー数は若干減少傾向にある（表 3-2 参照）。

一般事業の上位コンテンツ 20 位（表 3-3 参照）の前年度からの大きな変化としては、TOP ページへのアクセス数が増えた。地域からの便りは、平成 19 年度（2007

年度）から海外からの便りを、平成 25 年度（2013 年度）からは国内の環境と共生する住まい・まちづくりの専門家からの声を集めたコンテンツである。令和 5 年度中は地域会員からの原稿を募ったが応募がなかったため更新の機会がなかったが、12 年間の連載で集められた国内外の環境と共生する住まいづくりや住まい方についてのレポートが検索エンジンを介して多くの人に読まれた。

表 3-3 一般事業上位 20 位コンテンツの比較

順位	令和 5 年度 (2023. 4. 1~2024. 3. 31)		令和 6 年度 (2024. 4. 1~2025. 3. 31)	
	コンテンツタイトル	PV/日	コンテンツタイトル	PV/日
1	TOP	64	TOP	169
2	環境共生住宅とは	55	地域からの便り	69
3	kkj 特集	50	kkj 特集	59
4	環境共生住宅事例 DB	21	環境共生住宅とは	50
5	国土交通省補助事業成果	20	環境共生住宅事例 DB	19
6	協議会の紹介	16	環境共生住宅推奨部品 DB	14
7	地域からの便り	16	国土交通省補助事業成果	14
8	ESH パッシブデザイン ツール	15	ESH パッシブデザイン ツール	13
9	環境共生住宅推奨部品 DB	13	協議会の紹介	11
10	くまの家 ものがたり	13	ゼロからはじめる環境共生住宅	8
11	ゼロからはじめる環境共生住宅	9	kkj の 5 カ条シリーズ	5
12	kkj ★ KIDS	8	kkj の出版物・ツール	5
13	kkj の 5 カ条シリーズ	8	kkj ★ KIDS	4
14	会員の環境への取り組み	5	くまの家 ものがたり	2
15	kkj の出版物・ツール	5	交流セミナー	2
16	協議会の紹介 INDEX	3	環境共生まちづくり DB	2
17	環境共生住宅とは INDEX	2	会員専用ページ	2
18	くらしかた・すまいかた	2	会員の環境への取り組み	2
19	交流セミナー	2	協議会の紹介 INDEX	1
20	環境共生まちづくり DB	2	くらしかた・すまいかた	1

PV/日：1 日あたりのページビュー数（ページが閲覧された回数）

赤字：前年度と比較して 1 日あたりのページビュー数が増えた、もしくは順位が上がったコンテンツ

3-2 会員へのサービス提供

協会会員へのサービス提供事業としては、

- 見学会
- 交流セミナー
- 技術研修交流会
- 機関誌の発行

を実施した。

(1) 見学会

①趣旨

各地に建設された環境共生への取り組みを図っている先進的な事例見学を通じた知見の拡大、情報収集を行うことにより、環境共生住宅・まちづくりに対する理解をより一層深め、普及促進を図ることを目的としている。

②実施概要

第1回では、札幌市の副都心、新札幌地区の大規模再開発で、複合用途による新たな賑わいの創出を図った複合開発の見学会を実施し、オプションとして北海道における木材活用を図るとともに地域の気候風土に配慮したオフィスビルを見学した。

第2回では、地域の生態系や風景を守り「100年後の辻堂の風景」を住まい手と共につくっていくことを目指した戸建て賃貸住宅の見学会を実施した。

a. 第1回（8月9日開催）／参加者数25名

- ・マールク新さっぽろ

（大和ハウス工業（株）、大成建設（株）による新さっぽろ駅周辺大規模再開発）

オプション見学／北海道地区FMセンター・北海道森林組合連合会 b. 第2回（12月6日開催）／参加者数18名

b. 第2回（12月23日開催）／参加者数26名

- ・ちっちゃい辻堂／久根下・出口

（ビオフォルム環境デザイン室の設計による地域に根ざした土地活用）

(2) 交流セミナー

①趣旨

広く環境に関連する最新情報、知見の収集や交換、会員相互の交流の促進を図る場として、当セミナーを通じて協会の活性化を図ることを目指している。

②実施概要

第1回では、日本の気候風土と日本人の感性やライフスタイルに適合させた普遍的な「日本の住宅」の理想形といわれる「聴竹居」の環境的な実測データを通じて、環境工学と建築計画・デザインの融合について学ぶ機会となるセミナーを開催した。

第2回では、外部（自然）とつながりながらつくる建築環境やシミュレーション技術を駆使した設計を通じて、循環型の“開放系モデル”の可能性と未来の環境建築デザインについて考えるセミナーを開催した。

a. 第1回（6月21日開催）／参加者数51名

- ・受容する建築～環境工学と建築計画・デザインとの融合～

（千葉工業大学創造工学部建築学科 教授 博士（工学） 金子 尚志氏）

b. 第2回（1月24日開催）／参加者数42名

- ・サステナビリティが導く新しい建築の美学

（株式会社SUEP 主宰、九州大学大学院人間環境学研究院准教授 末光 弘和氏）

(3) 技術研修交流会

①趣旨

異業種が集まる当協会の特徴を活かし、会員相互の環境共生関連事業における業容拡大や新たな事業機会等に寄与する機会の創出を目的としている。

②実施概要

省エネ・省資源・ロングライフ・生物多様性とのかわりをテーマに環境配慮型の各インテリア商品の開発・販売に取り組んでいる（株）サンゲツの環境共生技術について座学とショールーム見学を実施した。

a. 株式会社サンゲツの環境共生技術

（11月11日開催）／参加者数24名



(4) 機関誌の発行

独自の取材記事や協会主催の見学会、交流セミナー等の実施レポートをまとめ、計1回発行した。

(5) kkjの活動情報発信

kkjサイトの会員専用ページでは、最新情報への更新・追加

に努め、会員向けの情報の充実化を進めた。

3-2-1 見学会の開催概要

(1) 第1回見学会

■見学先：マールク新さっぽろ

■日 時：令和6年8月9日（金）13:30～16:00

■内 容：

- 集合住宅見学
- I街区見学
- エネルギーセンター会議室にて質疑応答
- エネルギーセンター説明+見学
- 全体質疑応答

■参加者数：25名

■オプション見学（参加希望者のみ）

見学先：北海道地区FMセンター

北海道森林組合連合会事務所

日 時：令和6年8月8日（木）13:30～16:30

参加者数：10名

■見学会の様子

■主な内容

□マールク新さっぽろ

エネルギー消費の平準化と効率化を図り、コンパクト&スマートシティによる都市拠点再編モデルとなることを目指し、メディカルゾーン、商業施設、ホテル、集合住宅を組み込んだ用途複合で新たな賑わいの創出を図った複合開発のまちづくりを見学できた。

□北海道地区FMセンター

内部の温熱入れ子構成で新しい中間領域（亜寒帯の縁側）を創出するとともに、一般流通木材を用いたダブルティンバー構造の開発により森林とまちをつなぐ循環への貢献を図った、亜寒帯気候に適合した木造中規模ウェルネスオフィスを見学することができた。

□北海道森林組合連合会事務所

CLTの構造耐力壁、大断面集成材をはじめ、構造材や内外装材に道産材を活用するとともに、旧事務所に使われていた木材の再利用により、道産材のショールームともいえるオフィスを見学することができた。



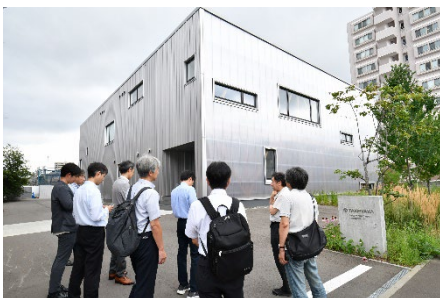
マールク新さっぽろのまちなみ



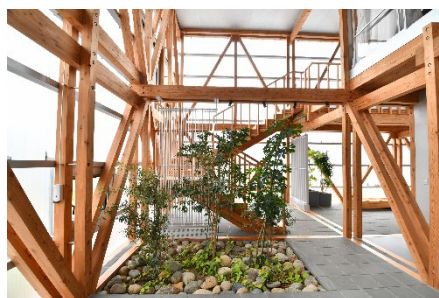
アクティブリnkを介して各施設を回遊



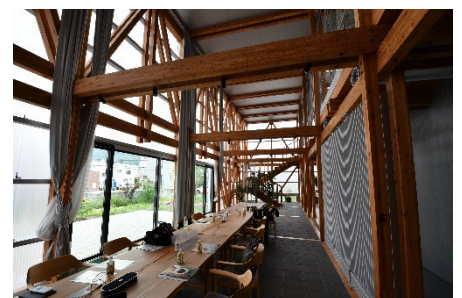
エネルギーセンター



北海道地区FMセンター外観



流通木材を活用したダブルティンバーの架構



温熱入れ子構成の新しい中間領域



北海道森林組合連合会事務所外観



CLTによる構造耐力壁



旧オフィスの内装材や家具の再利用

(2) 第 2 回見学会

■見学先：ちっちゃい辻堂／久根下・出口

■日 時：令和 6 年 12 月 23 日（月）13：30～16：30

■内 容：

- 株式会社五兵衛 石井 光氏による事業概要説明
及び株式会社ビオフォルム環境デザイン室 山田
貴宏氏による建築の概要、環境配慮に関する説明
- 施設見学

■参加者数：26 名

■主な内容

□石井氏による説明

辻堂の様な郊外都市は、自然環境やコミュニティは減少しつつある。村と山の間である里山、人と自然の間、都市と田舎の間など、境界部分から文化が生まれる可能性があると思っており、里山的なものを街なかに取り戻していくことが大事だと考える。

人口減少や空き家問題等もあり相続税対策で新築建物を作るのが正しいのか疑問で、コミュニティや自然環境のレイヤーで価値を出すことが良いのではないかと考え、地主の責任で街の風景、景観、文化を創出したいと考える様になった。かつ、住まい手にとっても自然環境が豊富な暮らし方を提供したかった。自然環境とコミュニティが豊富にある、この辻堂という街の 100 年先の風景を創造しようと「ちっちゃい辻堂」と名付けた。

□山田氏による説明

関係性のデザインを目指しているため、できるだけ建築の外側の領域に人が出て、そこで住んでいる人たちの化学反応が起き、その環境を豊かにすることで人の関係性も豊かにする。人と環境の関係性がオーバーラップする状況を総合的に作ることを目指した。

コモンに面する土間空間は、仲良くなった家族が訪ねて縁側的な空間になるイメージをし、伝統的な四つ間の構造形式で奥に行くほどプライベートになる。パブリック、セミパブリック、コモンという空間のグラデーションをつくりながら外の領域も豊かになるように計画した。パッシブデザインや地産地消の素材を使い、周りの緑を生かし、ボリュームのある植樹計画など小さな技術の積み重ねで総合的に良好な住環境となることを思考した。

特徴的なのは微気候形成の一環であるが、表土 30cm くらいを掘り下げ、そこに有機物をレイヤーにしながら地中の水と空気を改良する微生物舗装という外構計画をしている。

昨今は『ビヨンドサステナビリティ』がキーワードで、建築や人間の行為が環境を再生していくというフェーズに来ている。日本でも建築行為そのものが環境をよくするという考えに転換していくことが求められている。

■見学会の様子



石井氏による説明



久根下の全景



久根下の住戸内



コモンハウス



山田氏による説明



出口の全景



出口の住戸内



共用広場

3-2-2 交流セミナーの開催概要

(1) 第1回交流セミナー

■日 時：令和6年6月21日（金）15：30～17：00

■場 所：オンライン開催（Zoom 利用）

■テーマ：受容する建築

～環境工学と建築計画・デザインとの融合～

■講 師：千葉工業大学 創造工学部 建築学科 教授
博士（工学） 金子 尚志氏

■参加者数：51名

■主な内容：

地域に潜在する多くの特徴を受け入れることをパッシブ、それらの要素によって人の行動や建築の形を作っていくことをレスポンスと呼ぶならば、その双方のデザインということで、パッシブ&レスポンスのデザインを「受容する建築」と考えている。身の周りのたくさんの地域資源と呼ばれるものをいかに見つけ出し、それを現象として科学的に解析しトライアルしてインプットすることがパッシブ。人の行動や建築の形として現すことがレスポンスという、そんな双方の考え方ができると良いのではないかと。

聴竹居の平面は、主要な部屋である居間、寝室、小上がり、勉強部屋、縁側が南側にある。そして雁行し

ているプランとなっているが、おそらく東西方向に最も長く取れるという意味で、雁行させながら45°振っているのではないかと。雁行させることによって、南に面する壁面の長さを一番長く取れると考えたのではないかと、想像している。

聴竹居の思想としてまとめると、ちょうど西洋文化が入ってきた時代なので、畳の小上がり部分に床座と椅子座の融合が見られたり、宮大工を引き抜いてつくった数寄屋の内装材の追求といった非常に豊かな上質な素材による実践がなされている。何よりも、日本の気候風土に適応した住宅を科学的に追求し、計画と環境を同時に考える建築計画原論の先駆けとして位置づけられるのではないかと。

外気温は、11時ぐらいから上がって37℃程度まで記録するが、クールチューブ内の表面温度はそこまで上がらず、その上がり幅はかなり小さいことが確認されている。外気温37℃ぐらいの時でも29℃ちょっとの温度として室内に入ってきている。当時、今ほど温暖化の影響がない時代と考えると、相当な効果だったのでないかと想像できるし、現代の目で見ても、外気に比べてこれくらい涼しい空気が入ってくるのであれば、活用できるのではないかと。

Passive and Responsive Design 受容する建築

自然エネルギーの活用に加えて、地域の特徴こそが建築をつくる環境要素ととらえています。

地域に潜在する多くの特徴を見つけて出して受容することを“Passive”、それらによって人の行動と建築のかたちとして応答する“Responsive”。

この双方のデザインを“Passive and Responsive Design”「受容する建築」と考えています。

環境共生

第5回・1928年

「聴竹居図案集」

- ・平屋
- ・南北軸に約45度
- ・南北に長い
- ・中廊下

東西方向を最も長くとれるのが対角

「聴竹居図案集」

環境共生の思想と建築

聴竹居の思想

- ・床座、椅子座の融合
- ・数寄屋など、内装素材の追求
- ・日本の気候風土に適した住宅の科学的研究

→建築計画と環境工学を同時に考える＝「計画原論」のさきかけ

「日本の住宅」という実験

藤井厚二の

夏季の温度実測・結果

8月8日クールチューブ出入口気温

室内側
クールチューブ出入口気温
クールチューブ入口気温
室外側

2021年8月8日のクールチューブ出入口の気温

室内側出口の気温をみると、11:30頃からクールチューブの効果が確認されるようになる。14:45に最大の温度差=7.6℃となった。

104

(2) 第2回交流セミナー

■日時：令和7年1月24日（金）10：30～12：00

■場所：オンライン開催（Zoom 利用）

■テーマ：サステナビリティが導く新しい建築の美学

■講師：株式会社 SUEP. 共同主宰

九州大学大学院人間環境学研究院 准教授

末光 弘和氏

■参加者数：42名

■主な内容：

□新しい美学の必要性

1. 自然のロジックに従う形

環境共生の時代には自然のロジックに寄っていくものだと思っている。近代建築はどんな気候でも同じ様に人工環境をつくるのがベースにあったが、自然環境は場所によって全く異なる。植物や農業にイメージが近く、その場その場で最適化され、光や風を求めながら変化させていくものというイメージがある。

2. 循環の一部となる建築

地球環境問題は独立した系で考えると、住宅やまちはそれぞれ閉じれば良いが、生命体は外と中のやり取りで成り立つため、オープンシステムの中でどうやって建築を快適にするかが大切。建築は自然を排除するものとして捉えがちだが、窓を開けて光や風を取り入れて、どうバランスをとるかが大事。

3. バランスという美学

サステナビリティとは要はバランスなのではないか。動的平行の取れた状態がサステナブルになるポイントだと考える。このバランスがもたらしている美しさは、人が共感したり良いなと思ったりするものだと思う。建築でもバランスされたものが美学になれば良いのではないか。

4. 最小限の介入

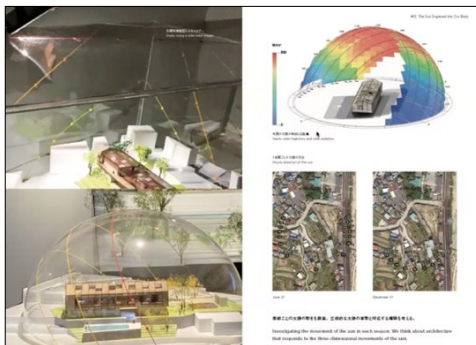
建物を建てるために大きく地盤調整をするのではなく、斜面をそのまま受け入れて地盤に沿って曲げて、斜面自体が建築の中、部屋の中にも入り込んでいるような作り方ができるのではないか。また、基礎を最小限にするため、合理的に造られている農業用の構築物も参考となる。日射や通風を重要視するので、シンプルな中にも自然の合理性がある。

5. 時間軸の計画

研究室で長く持続してきた古今東西の場というものから様々な理屈がわかってきて、循環が非常に重要であり止めてはいけない。循環するためには人、技術、お金が必要でこれらが循環する仕組みを作っていくことが重要。近代の計画や施策は時間軸が抜け落ちている。建築は時間の中で存在し、いろいろな時間軸の中で我々は生きているので、動的に建築を見ていくことが今後のキーポイントだと思っている。サステナブルな話は、ほとんど時間の話だと考える。



地域の生態系ネットワーク



自然のロジックに従う形／淡路島の住宅



バランスという微雅楽／Office By-Yu, 台湾



最小限の介入／KEEP GREEN HOUSE

3-2-3 技術研修交流会の開催概要

■日 時：令和6年11月11日（月）15：00～17：30

■場 所：株式会社サンゲツ 品川ショールーム
及び4階セミナールームA

■テーマ：サンゲツの環境共生技術

■内 容：

サンゲツの紹介：(株) サンゲツ レジデンシャル
ユニットマネージャー 富田 一哉氏

サンゲツの環境への取り組み、環境商品・技術の紹介：
(株) サンゲツ 市場開拓ユニット フィルム事業
室長 朝比奈 啓祐氏

■参加者数：24名

■主な内容：

株式会社サンゲツは、壁紙・床材・ファブリックを中心に展開するメーカー。ここ数年は空間提案を行うスペースクリエーション企業を目指している。

□ガラスフィルムについて

飛散防止を目的として誕生したが、震災等を踏まえ省エネ効果（遮熱・断熱）にも注目されるようになってきた。また、近年では防犯対策としてフィルム施工を行うケースも増えてきている。

□ガラスの性能

2022年時点での戸建て住宅やマンションにおけるガラスの設置状況は、複層ガラスやLow-eガラスが大

半を占めているが、2008年に遡ると複層ガラスやLow-eガラスの設置状況が大きく落ちる。築18年以上のストック住宅はその多くがフロートガラスの可能性が高く、省エネ性能に劣る状況がある。

□ガラスフィルムによる紫外線の制御

フィルムをガラスに貼ることにより紫外線の波長領域をコントロールし、ユーザーが求める適切な窓になることを目指す。特にフロートガラスの住宅に効果的な商品であり、窓ガラス自体を変えるより費用対効果に優れる。ホームページでガラスフィルムを設置した場合の省エネ（光熱費）シミュレーションも可能。

□品川ショールーム見学及び商品紹介

品川ショールームでは、以下の商品を中心に見学した。

- ・ガラスフィルム：紫外線や熱の伝わり方を体感できる展示空間
- ・エコニール：漁網やペットボトルをリサイクルした床材
- ・メグリウォール：穀殻を使った壁紙
- ・CO₂削減証明書 発行制度：
製品生産の上で従来製品と比較してどれだけCO₂を削減したか証明する。
事業者がCO₂削減報告のエビデンスとしても利用可能。



富田 一哉氏による説明



朝比奈 啓祐氏による説明



座学の様子



ショールーム見学／ガラスフィルム



ショールーム見学／カーペットタイルサンプル



ショールーム見学／壁紙サンプル

3-3 会員拡大や協会の認知度向上等に向けた 広報活動

3-3-1 アクセス解析を元にした普及展開活動

(1) パッシブデザイン「公共施設」事例ページの作成

①概要

令和5年度のアクセス解析では、CTR^{※3}の高い検索クエリ^{※4}として「パッシブデザイン 公共施設（表示回数185、クリック数63、CTR34.1%）」があったが、kkj サイトの中にこのキーワードに対応するページがなかった。そこで令和6年度の広報活動で、パッシブデザインの公共施設の事例ページを新たに作成した。

※3 CTR:「Click Through Rate」の略で、ユーザーに自社サイトのリンクが表示された回数（impression数）のうち、実際にクリックされた回数の割合のこと。

※4 検索クエリ：検索キーワードの組み合わせのこと。

②掲載事例の選定方法

掲載事例は、kkjの見学会等で実際に訪問した公共施設のうち、パッシブ的な工夫を取り入れた事例とした。また見学会報告レポート等、関連する詳細情報をkkjが作成し、公開しているものとして、6件の事例を掲載することとした（表3-4）。

③掲載ページの構成

事例掲載ページの構成は、既に公開していたパッシブデザインの住宅の構成と揃え、さらに各施設の取り組んでいるパッシブ的な工夫も紹介した。



太田市美術館・図書館

美術館と図書館を併設した文化交流施設

太田で育まれてきたものづくりの英知を継承しながら、市民によるこれからのまちづくりの拠点となることを目指して作られた公共施設。5つの鉄筋コンクリート造の「BOX（ボックス）」の周りに、鉄骨造の「LIMB（リム）」によるスロープがぐるぐると取り巻く構成により、人は街を歩くように、自然に各階を巡ることが出来る建築となっている。

パッシブデザインの特徴：

- ・太田市の日照時間の長さを活かす自然光計画
- ・気流解析を活かし開口部の適切な配置を行い、テラスと屋内の最適な風環境を体現

事業主体：太田市

所在地：群馬県太田市

用途：美術館、図書館、ホール、カフェ

関連ページ：[見学会報告レポート（会員専用）](#)

[公式サイト（外部リンク）](#)

表3-4 パッシブデザイン・公共施設の実例

事例名	太田市美術館・図書館	紫波町役場庁舎	みんなの森 ぎふメディアコスモス	長池ネイチャーセンター (現 長池公園自然館)	東部地域振興ふれあい 拠点施設ふれあい キューブ	瑞浪北中学校 スーパーエコスクール
概要文	美術館と図書館を併設した文化交流施設	国内最大級の3階建て木造庁舎	知と絆と文化が 思いがけなく出会う場	里山をテーマとする 長池公園の拠点施設	積極的な木材利用を 図った公共施設	生徒が自ら考えて 行動するゼロエネルギー スクール
事業主体	太田市	紫波町	岐阜市	八王子市	埼玉県、春日部市	瑞浪市
所在地	群馬県太田市	岩手県紫波町	岐阜県岐阜市	東京都八王子市	埼玉県春日部市	岐阜県瑞浪市
用途	美術館 図書館 ホール カフェ	役場庁舎	図書館 市民活動交流センター 展示ギャラリー ホール	公園管理施設 自然学習施設	ホール 市民活動センター バスポートセンター 保健センター 創業支援ルーム等 複合施設	中学校
パッシブ的な特徴	・太田市の日照時間の長さを活かす自然光計画 ・気流解析を活かし開口部の適切な配置を行い、テラスと屋内の最適な風環境を体現	・無落雪の屋根構造（南勾配の片流れ屋根と太陽熱利用による自然融雪の促進） ・定風量吸排気スリットによる自然換気	・「グローブ」上部の水平窓による自然換気 ・トップライトによる自然光利用 ・長良川の伏流水を活かした熱源計画 ・太陽光発電（採熱＋発電）	・パッシブソーラーシステムによる換気暖房 ・風車で揚水する雨水利用	・井水の効果的利用 ・地熱・太陽光・太陽熱等の自然エネルギー利用	・登り窯型の自然換気システム ・クールヒートトレンチによる地中熱の冷暖房への活用 ・ライトシェルフによる積極的な自然採光の実現 ・太陽熱ウォール設置による各教室の太陽熱暖房 ・太陽集熱ルーフによるアリーナ内の太陽熱暖房 ・高窓の設置による体育館内の自然換気
見学会実施日	2023年8月22日	2018年12月4日	2018年1月22日	2002年4月12日	2013年11月22日	2019年8月19日
サイト内関連ページ	R5-1 見学会報告レポート（機関誌 SH_No56 掲載）	H30-2 見学会報告レポート（機関誌 SH_No51 掲載）	H29-2 見学会報告レポート（機関誌 SH_No49 掲載）	環境共生住宅事例 DB（公共施設）	H25-2 見学会報告レポート（機関誌 SH_No49 掲載）、環境共生住宅事例 DB（公共施設）	R1-1 見学会報告レポート（機関誌 SH_No52 掲載）

(2) 対象別会員サービスの充実化

会員サービスの一層の充実化を目指し、「会員特典」として挙げている会員サービスから kkjWEB サイトのコンテンツを中心に、会員区分別に利用状況を整理、解析した。(表 3-5 参照)。

表 3-5 kkj サイトを中心とした会員サービスの利用状況

コンテンツ名	会員の環境への取り組み			
1	概要	募集頻度：年 2 回 原稿作成：会員 掲載可能件数：正会員 8 件、情報会員 2 件、地域会員 1 件		
	利用状況	正会員	情報会員	地域会員
	活用度	54.5%	6.9%	0.0%
	平均掲載件数/社	5.3 件/社	1.3 件/社	0 件/社
	コンテンツ名	ショールーム・モデルハウスリスト		
2	概要	更新頻度：年 2 回 原稿作成：技術顧問		
	利用状況 (活用度)	正会員	情報会員	地域会員
	ショールーム	15.1%	5.2%	0.0%
	モデルハウス	24.2%	6.9%	55.5%
	総合住宅展示場	3.0%	6.9%	0.0%
	展示施設	6.1%	1.7%	0.0%
3	コンテンツ名	環境共生住宅推奨部品データベース		
	概要	更新頻度：年 1 回 原稿作成：会員 ※会員外でも有料で掲載可		
	利用状況	正会員	情報会員	地域会員
	活用度	18.2%	12.1%	0.0%
	コンテンツ名	環境共生住宅推奨部品データベース		

※8 月 19 日までの利用状況

会員が原稿を作成する形式の会員サービスの活用度が低いことが明らかになった。そこで会員特典の積極的な活用を促すために、会員限定のセミナー・勉強会・見学会の情報を中心に、kkj サイトの更新情報をメールマガジンとして作成、発行することとした。

- ・発行体制：原稿作成 (技術顧問)

原稿チェック及び配信 (kkj 事務局)

- ・発行頻度：月 1 回 (12 月より配信開始)

(3) 国土交通省補助事業成果報告書掲載ページの改編

令和 5 年度のアクセス解析によると、国土交通省補助事業 成果報告書の PDF は、表示回数は多いが、CTR (クリック率) が低かった。検索エンジンからの流入口となっているページであるため、各報告書の表紙と目次情報を WEB ページとして追加し、検索結果の上位に表示されるような改編を行った。

- ・公開日：1 月 6 日

- ・現状のディレクトリ構成を見直し、1 つ上の階層に移動させた。

□修正前：home>建てる・リフォームする>補助事業 成果報告



□修正後：home>補助事業 成果報告



- ・公開中のページ構成を見直し、表紙画像を付け見やすくした。

□修正前：PDF アイコンと解説文



□修正後：表紙画像と解説文



4. 普及展開活動

(1) 目的

脱炭素型社会や SDGs に賛同する組織として、社会的要請やニーズに対応すべく体制や活動内容等の更なる充実を図るとともに、団体名称変更に伴い、kkj が考える環境共生まちづくりについて、カテゴリー及び対象とする範囲等について検討し、今後の活動の方向性のベースとする。また、kkj 活動を通じてとりまとめた成果の公開と、これらを活用した説明会や新たな活動（暮らし方教室）を実施し、工務店・設計事務所及びエンドユーザーに向けた情報発信を行う。

(2) 実施内容

①「環境共生まちづくり」に関する検討

Okkj が考える（対象とする）「環境共生まちづくり」について「環境共生まちづくり事例紹介+意見交換会」及び関係機関等へのヒアリング等の活動を通じ、その範囲、内容等について検討を行った。

- ・「環境共生まちづくり事例紹介+意見交換会」を実施

併せて、動画を kkjWeb 会員専用ページより公開した。
https://www.kkj.or.jp/contents/casestudy_discussion/report.html

- ・「環境共生まちづくり」に関して、アルセッド建築研究所三井所清典氏へのヒアリングを実施した（7月12日）。
- ・kkj 活動の方向性を検討するため、kkj 会員のうち建設会社・住宅メーカー（デベロッパー部門）との意見交換会を実施した（第1回：11月26日、第2回：2月27日）。
- ・kkj が活動の対象とする「環境共生まちづくり」のカテゴリーについて整理・検討を行った（下表）。
- ・団体名称変更後1年が経過するのに伴い、kkj パンフレットを恒久的な内容に改訂した。
- ・kkjWeb の「環境共生住宅とは」「環境共生住宅とパッシブデザイン」コンテンツについて、非住宅系を含めた見直しを行った（継続中）。
- ・「脱炭素社会推進会議」において kkj の活動内容を報告した。

環境共生まちづくりカテゴリー一覧（案）（抜粋）

事業のきっかけ		1. 地主の土地活用		2. 建替え・リノベーション・改修	3. 跡地利用	4. 再開発・都市整備（駅周辺・市街地内）	5. 住宅地開発	6. 自治体のまちづくり	7. 災害復興まちづくり
事業者	個人 不動産業者	企業（住宅メーカー）	企業 自治体	企業 自治体	再開発組合 自治体 企業 （ゼネコン・不動産会社）	自治体 UR都市機構 公社 企業（社団）	自治体 企業 大学	自治体 関連団体等 企業	
用途	賃貸住宅 店舗	複合用途	住宅（集合・戸建） 非住宅施設	複合用途 住宅（集合・戸建）	複合用途施設 住宅（集合・戸建） 商業・業務施設 医療施設 教育施設	住宅（集合・戸建）	まちづくり 住宅（集合・戸建） 公共施設 福祉施設 教育施設 商業・業務施設	まちづくり 住宅（集合・戸建） 公共施設 コミュニティ施設 エネルギー供給施設	
主な例（立地）	東京23区 及び 横浜、千葉 中心市街地	①三年鳴かず飛ばず ②風光舎 ③ミドリノオカテラス	①深沢環境共生住宅	①Brillia深沢八丁目★ ②コモレ四谷	①麻布台セルズ★ ②蕭久クロス ③豊洲2・3丁目まちづくり ④武蔵小杉3丁目再開発 ⑤Brillia Towers 目黒	①ひばりが丘団地 団地再生			
地方都市 中心市街地		③ASMACHI三島 ④ASMACHI藤沢	⑤守山市新庁舎 『つなぐ、守の舎』★	⑥SuiteSST ⑦TSUNAGU GARDEN 千里藤白台 （国立循環器病研究センター 跡地）	⑧みんの森さかメティア コスモ ⑨太田市美術館・図書館		⑩オガールタウン （紫波町エコタウン）		
関連する制度・ガイドライン等 （法制度・補助事業等）			・サステナブル建築物等先導 事業（省CO2先導型）		・都市計画法 ・都市再開発法 ・都市再生特別措置法 ・サステナブル建築物等先導 事業（省CO2先導型） ・サステナブル都市再開発 アセスガイドライン	・地区計画制度	・土地区画整理法 ・都市の低炭素化の促進 に関する法律 ・森林環境譲与税	・都市再生特措法・都市 計画法改正 （「防災指針」、開発許可 厳格化） ・流域治水関連法	
性能・数値的な目標等	<p style="text-align: center;">脱炭素・省エネ・省CO2</p> <p style="text-align: center;">GX志向型住宅</p>								
建物側	・まちのつながり ・地域の風土や文化の 継承	・福祉サービスを備えた 地域拠点 ・近隣エリアへの波及	・パッシブデザイン ・地域の気候風土を 活かす設計 ・自然エネルギー、 バイオマス利用 ・既存の環境資源の活用	・エコスマート （暮らし、空間設計、 インフラ） ・災害時のライフライン確保	・脱炭素 ・エネルギー消費の平準化 と効率化 ・BCP		・公共施設の木質化 ・森林認証材の利用 ・地域産材の利用 ・木質バイオマス活用	・雨水貯留、雨水流出抑制 ・防災・災害対応型設備・ システムの導入 ・非常時の自立電源確保	
建物以外 （自然環境及び人 文・社会環境とのつな がり）	・コミュニティ形成 ・生態系保全	・地域社会とのつながり ・近隣エリアへの波及 ・多世代	・地域とのつながり、 地域への開放 ・多世代、多様性	・タウンマネジメント ・地域の手と資源で長く 住み継がれる公営賃 貸住宅 ・モ人コト、ヒトのつながり	・まちの活性化、にぎわい ・防災 ・まちなみ景観	・景観協定 ・ちいせなコミュニティ作り ・緑の濃い四季の彩りを 感じる ・次世代に引き継がれる 魅力あるまち ・無電柱化 ・住民向け及び新規参入者 向け地域プロモーション× モビリティ	・マイクログッドの形成 ・高台移転 ・電力融通		
生物多様性・ネイチャー・ポジティブ・サーキュラー・エコノミー									

②環境と共生する暮らし方教室（夏編）の実施

・福島県広野町において大人向け教室を開催した（8月6日）。

③ESH パッシブデザインツールの普及展開

・令和5年度の成果であるツールのバージョンアップとして「実際に近いスケジュールへの対応」をテーマとする論文及びESH パッシブデザインツールの住宅設計における活用に関する論文4本を作成し、日本建築学会大会で発表した（8月28日）。

④「戸建住宅の太陽光発電システム設置に関するQ&A」に関する情報追加

・上記「Q&A」について、経済性シミュレーションに関する追加情報の掲載 及び 参考情報として総務省「無線通信への影響を低減させるための具体的な方法」へのリンク追加を行った（4月25日）。

・「Q&A」へのアクセス数：11,462PV

（発表日 2023年4月28日～2025年3月31日まで）

※国土交通省補助事業成果報告書のPDFを掲載しているページのページビュー数

■第1回事例紹介＋意見交換会

□事例：マールク新さっぽろ

□講師：大和ハウス工業株式会社／谷内 崇氏、河田 崇氏
大成建設株式会社／川崎 泰之氏

■主な内容

□新さっぽろ駅周辺地区G・I街区開発事業

- ①大和ハウス工業の紹介と北海道での大規模開発取り組み事例紹介
- ②新さっぽろ駅周辺地区G・I街区公募提案型売却
- ③コンソーシアム体制と7つの成長エンジン
- ④エリアマネジメントへの取り組み

□プレミスタワー新さっぽろ事例紹介

- ①プレミスタワー新さっぽろの概要
- ②ZEH-Mの仕様と分譲マンションにおける取り組み

□「共創型複合開発」による地方都市拠点の再編

- ①開発概要
- ②計画・設計コンセプト：「共創型複合開発」でサステナブルな都市拠点モデルを実現
- ③景観デザイン：多様な人々のアクティビティが中心に見えるまち
- ④「ひと」と「まち」をつなぐプロセスのデザイン

□日時：令和6年7月12日（金）15：30～17：00

□参加者数：31名（現地・オンライン）



栗原運営委員長あいさつ



谷内氏による説明



川崎氏による説明



会場の様子

■第2回事例紹介＋意見交換会

□事例：ASMAC I ミサワホーム

□講師：ミサワホーム株式会社／小口 太郎氏、若江 暁久氏

■主な内容

□ミサワホーム紹介

- ①まちづくりに関するパーパスビジョン策定と全国展開
- ②地域に付加価値を持たせるまちづくりの推進
- ③地域に好循環を持たせる再開発事例としてのASMAC I

□ASMAC I 全体概要説明

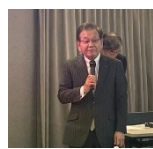
- ①街づくりブランドとしてのASMAC I
- ②地域の課題解決に向けての開発
- ③自治体、地元との協働によるコンセプト作成

□ASMAC I 具体的事例説明

- ①ASMAC I 浦安（全三期計画＋竣工後のエリアマネジメント）
- ②ASMAC I 神戸新長田
- ③ASMAC I 三島（進行中のプロジェクト）
- ④ミサワホームのまちづくり方針

□日時：令和6年11月25日（月）15：00～17：00

□参加者数：49名（現地・オンライン）



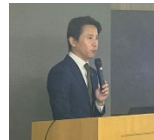
竹中会長あいさつ



佐藤常務あいさつ



小口氏による説明

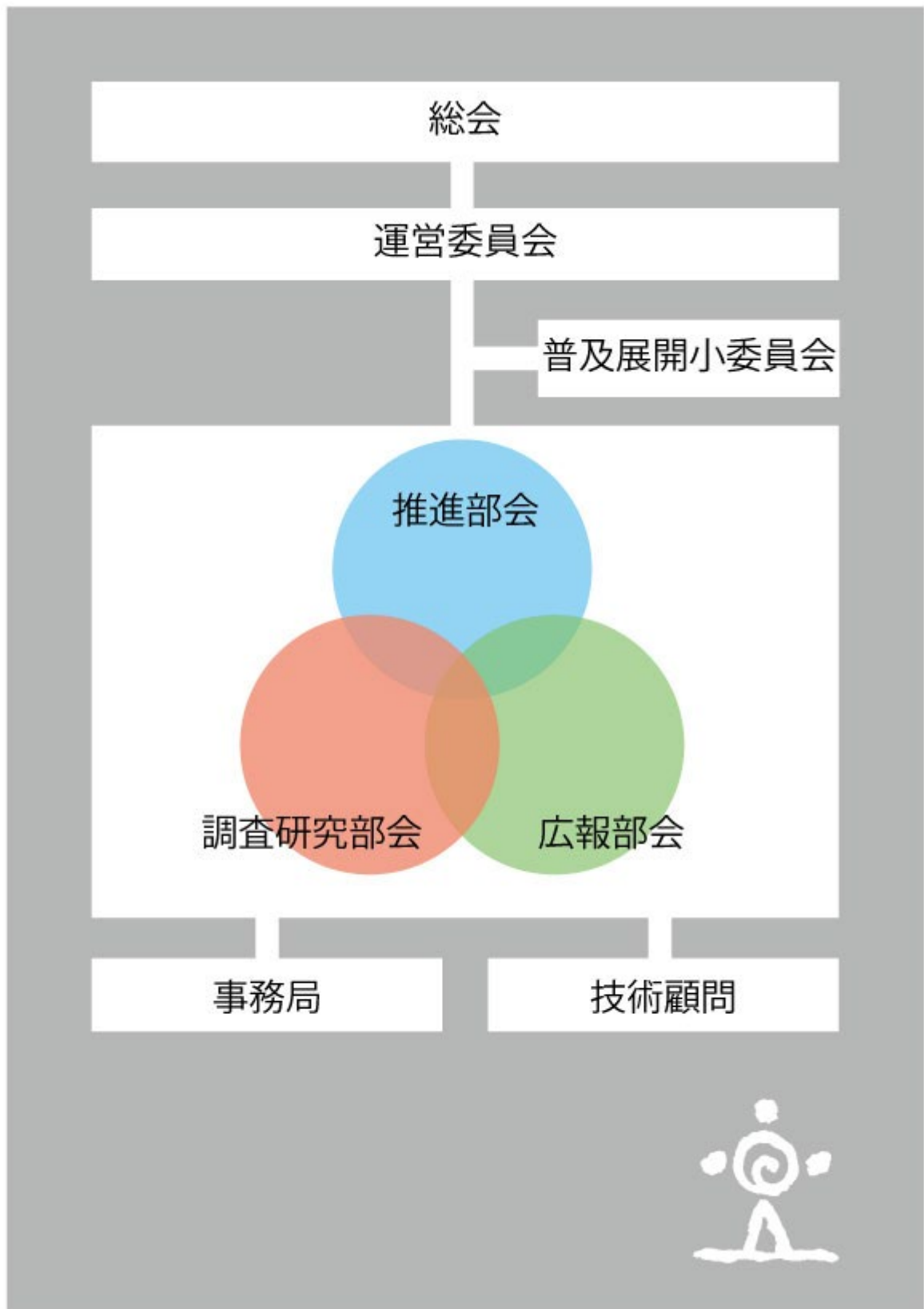


若江氏による説明



会場の様子

令和6年度 環境共生まちづくり協会
活動体制図





<https://www.kkj.or.jp/>

一般社団法人 環境共生まちづくり協会

〒162-0824 東京都新宿区揚場町 2-21 東ビル 6F

TEL 03-6265-3242